

第47期 ビジネスレポート

2022年7月1日▶2023年6月30日

株主の皆さまへ	1
連結決算ハイライト	3
セグメント別業績	4
特集	
サステナビリティ	5
株式情報	9
会社情報	10

株主の皆さまへ



代表取締役社長 **大内 雅雄**

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ユビテックでは、2021年9月に2025年6月期を最終年度とする中期経営計画「ユビテック4.0」を策定し、2023年6月期は2年目を経過しました。これまでは、中期経営計画の「着実な実行とエクスパティーズ向上」を掲げ、事業ポートフォリオの見直しと基礎開発、及び一部サービス運営を進めてまいりました。3年目となる2024年6月期からは中期経営計画の基盤強化と成長を目指す次の段階として、「Work Mate」「D-Drive」「カーシェア関連事業」に経営リソースを集約し、各サービスの本格提供とブラッシュアップを行ってまいります。なお、中期経営計画の最終段階に向けては、ユビテックのエクスパティーズを結集し、各サービスの連携を行い、一気通貫で付加価値の高い健康・安全支援サービスへ進化させてまいります。

■中期経営計画「ユビテック4.0」の基本方針

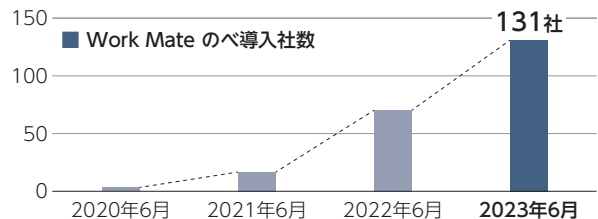
ユビテックは、従来高依存であったレガシーのデバイス製品から脱却し、顧客ニーズや社会変化に対応して持続的な価値創造を実現する新たな経営基盤の確立が必要であると認識しております。このようななか、中期経営計画「ユビテック4.0」のもとで事業ポートフ

ォリオを再構築し、従来、保有するIoTテクノロジーに加え、AI・データ活用をコア技術の柱とした新たなビジネスモデルへの転換を図っています。

また、企業理念を「人と社会に安全と快適を」へと再定義し、特に、企業の安定経営に必要な「ヒトの安全と健康」に係るデータの価値創造を最優先することで、エクスパティーズの向上に努めています。

■「ユビテック4.0」主要3サービスの進展と今後の展開

「ユビテック4.0」の基本方針に基づき、主力サービスである安全見守りサービス「Work Mate」では、現場作業者のバイタル・行動データを蓄積して活用を深化させ、「危険予知」機能の開発拡充を進めています。これは労災事故の状態発生検知にとどまらず、データから事故や熱中症などの予兆状態を捉えて、早期の行動変容を促し未然防止を支援するものです。2023年6月期には、不安全行動の予兆を検知する機能を新たに提供し、現場事故の過半数をカバーする危険予知サービスへ拡充しました。2021年1月のリリース以降、これまでの機能拡充に加え、積極的なプロモーション活動とユーザーニーズの拡大がマッチして、大手製造企業・建設企業を中心に導入企業数が着実に増加し、労災予防の市場拡大へと歩み続けています。



2022年9月に新たにサービスを開始したドライバー向け安全運転支援サービス「D-Drive」では、法令遵守と業務効率化の同時実現を目指し、酒気帯び確認と運転日誌、車両稼働率をクラウドで一括管理する機能を提供開始、今後はさらなる厳格な法令遵守による飲酒運転防止の徹底を目指し、酒気帯び確認とエンジンロックを連動させたデジタルキーによる自動制御機能をリリース

します。また、「Work Mate」で培ったデータ指標を応用・連携し、運転に支障のある体調変化を検知して安全運転支援を行う機能を追加開発し、交通事故の未然防止に寄与する統合サービスへと発展させていきます。

カーシェア関連事業では、カーシェア車載機の受注が増加しており、2024年6月期はさらなる高い安全性と汎用性を旨とした新型車載機の開発に着手します。

お客さまの現場課題は日々刻々と変化しています。ユビテックでは、すべてのサービスにおいて、クラウドデータを介して日々変化するお客さま課題とニーズを理解し、絶えず機能のブラッシュアップを図ることで提供価値を一致させ、Win-Winな関係維持に努めてまいります。

■2023年6月期業績と今後の見通し

ユビテックでは社会変化に柔軟かつ応答性高く対応するよう、中期経営計画に基づくビジネスモデルの転換を加速させています。

2023年6月期の主な事業活動としては、安全見守りサービス「Work Mate」において注意力低下検知機能追加を始めとするブラッシュアップや顧客サポート体制の強化を実行、安全運転支援サービス「D-Drive」は2022年9月にサービスを開始し、さらなる法令遵守徹底による飲酒運転防止を旨とした自動制御機能の開発も進めてまいりました。また、「Work Mate」「D-Drive」ともに、WEBマーケティング及びウェビナーなどによる情報発信や展示会への出展等を通じて、新規顧客の獲得に向けた積極的なプロモーションと営業活動が奏功して導入企業数が着実に増加しています。

一方で、「Work Mate」においては、導入規模やペースが当初想定より下回って推移しており、収益化に時間を要していることから保守的に回収可能性を評価した結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当事業が保有する固定資産について帳簿価額を回収可能価額まで減損することとし、減損損失73百万円を特別損失として計上することといたしました。

以上の結果、2023年6月期の業績につきましては、売上高は985百万円（前年同期比15.9%減少）、営業損失は226百万円（前年同期は営業損失207百万

円）、経常損失は228百万円（前年同期は経常損失206百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失は289百万円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失210百万円）となりました。

また、2023年6月期の期末配当については、現状の業績を踏まえ、誠に遺憾ではございますが、無配とさせていただくことといたしました。

株主の皆さまには深くお詫び申し上げますとともに、可能な限り早期に復配できるよう、事業転換と主力サービス間の連携を加速させて業績の改善に努めてまいります。

2024年6月期の見通しについては、従来の主力製品であった紙幣鑑別センサモジュールや通信アミューズメント機器が市場環境の変化による需要減少の影響を受けて今後も引き続き厳しい状況が続くものと想定しておりますが、一方で、事業転換により主力となるIoT事業につきましては、カーシェア車載機の継続受注に加え、安全見守りサービス「Work Mate」では今後も拡大傾向が続くものと予想しております。また、クラウド型安全運転支援サービス「D-Drive」につきましても、延期されていた白ナンバー事業者を対象とするアルコール検知義務化が2023年12月より開始される見込みとなったことから、次年度の業績に大きく寄与してくるものと予想しております。

以上により、2024年6月期の業績見通しにつきましては、売上高1,200百万円（前年同期比21.8%増）を見込んでおります。

■サステナビリティ方針の策定

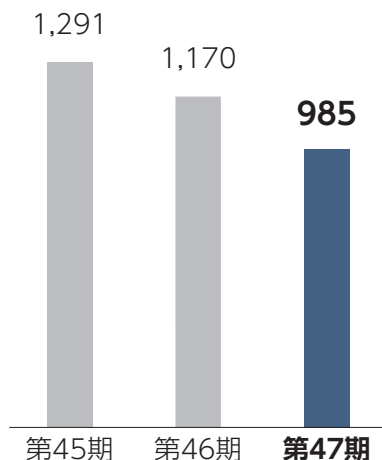
ユビテックでは、2023年6月にサステナビリティ基本方針を策定し、マテリアリティ（重要課題）の選定と目標設定を行い、課題の解決と目標達成に向けた各種取組を進めています。今後も「人の安全と健康に係るデータの価値創造」を最優先した事業活動を通じて、お客さまの安全と健康の実現を支援し続けることで、サステナブルな企業経営の実現と社会の発展に貢献してまいります。

何卒、一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

連結決算ハイライト

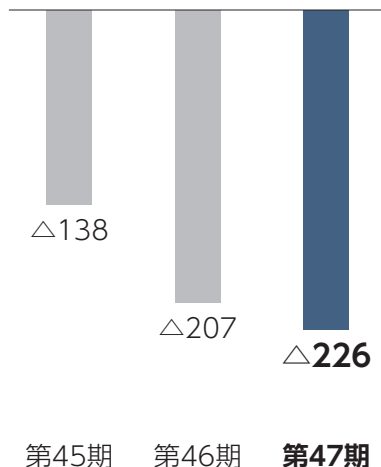
■ 売上高

(単位:百万円)



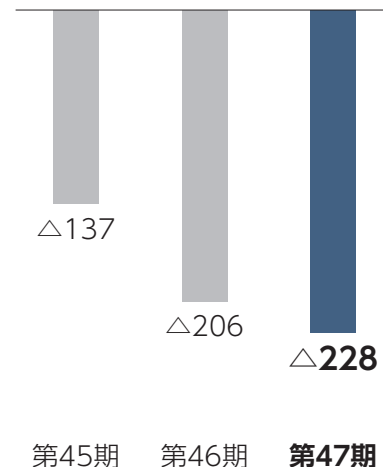
■ 営業損失(△)

(単位:百万円)



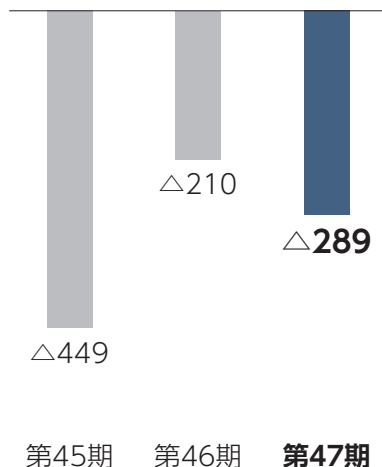
■ 経常損失(△)

(単位:百万円)



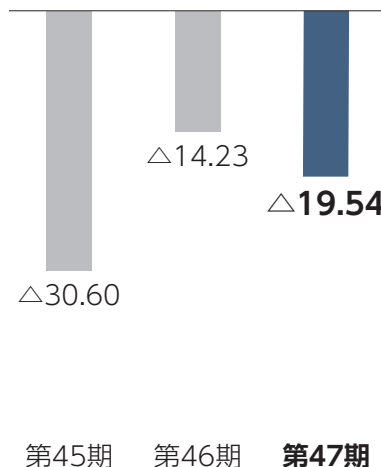
■ 親会社株主に帰属する 当期純損失(△)

(単位:百万円)



■ 1株当たり 当期純損失(△)

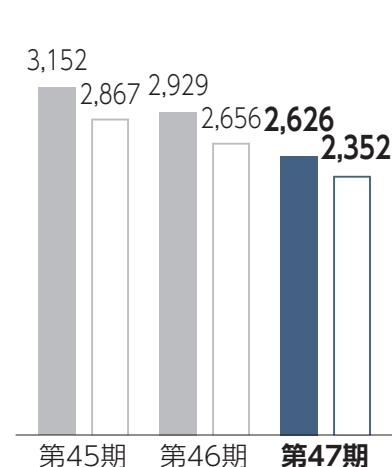
(単位:円)



■ 総資産／純資産

(単位:百万円)

■ : 総資産 □ : 純資産

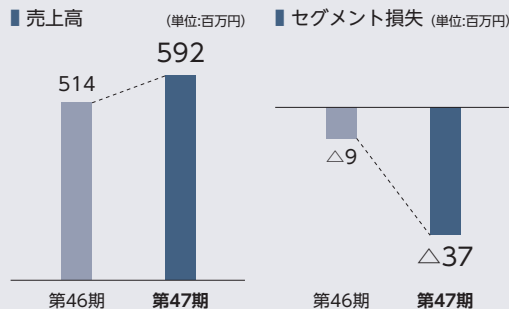


セグメント別業績

IoT事業

IoT事業は、車載機関連につきましては概ね横ばいでの推移となりましたが、「Work Mate」及び「D-Drive」につきましては積極的なプロモーション活動効果などにより導入実績は順調に増加していることから、売上高は増収となりました。一方で、利益面につきましては、広告宣伝費及び有形・無形固定資産に係る減価償却費の増加等により、損失幅は前年同期より拡大しました。

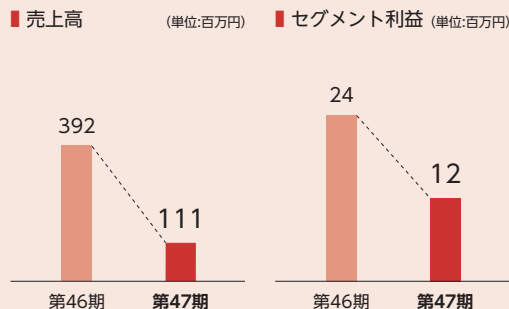
この結果、当連結会計年度の売上高は592百万円（前年同期比15.1%増加）、セグメント損失は37百万円（前年同期はセグメント損失9百万円）となりました。



製造受託事業

製造受託事業は、新規の量産案件として、第3四半期連結会計期間より医療業界向けに咬合力計測機器用回路基板の販売を開始しており、業績に寄与しておりますが、従来の主力製品であった紙幣鑑別センサモジュールの市場環境の変化による需要減少の影響が大きく、売上高、セグメント利益ともに前年同期を下回る結果となりました。

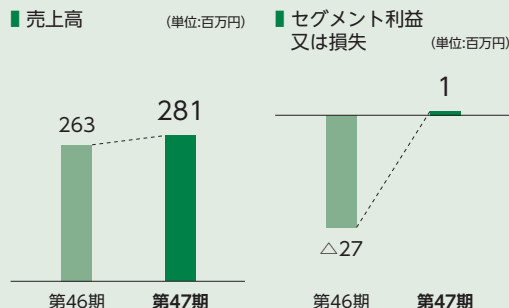
この結果、当連結会計年度の売上高は111百万円（前年同期比71.5%減少）、セグメント利益は12百万円（前年同期比46.7%減少）となりました。



開発受託事業

開発受託事業は、子会社のユビテックソリューションズにおいて、保険分野における受託開発案件が増加したことに加え、ユビテック及びユビテックソリューションズで進めている業務効率化及び人員の適正化も相まって、売上高は増収、セグメント利益も前年同期の赤字から黒字へ転換いたしました。

この結果、当連結会計年度の売上高は281百万円（前年同期比6.6%増加）、セグメント利益は1百万円（前年同期はセグメント損失27百万円）となりました。



1. サステナビリティ基本方針、推進体制

● サステナビリティ基本方針

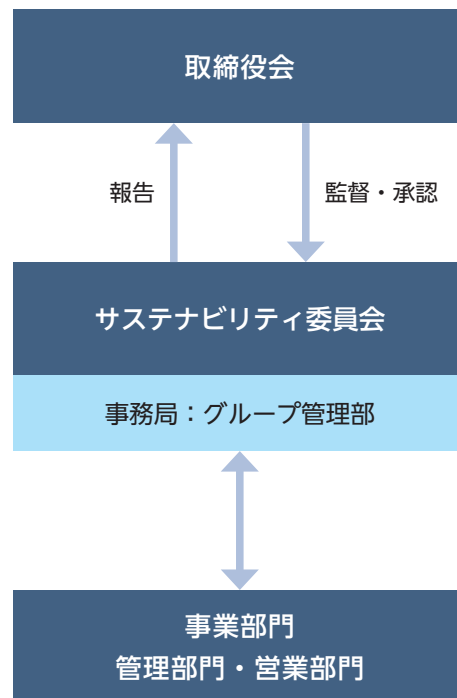
- ✓ ユビテックは、企業理念である「人と社会に安全と快適を」のもと、「お客さまの健康と安全を守る」こと、「社会変革と多様性に応じた最適な答えを導き出す」ことを提供価値と定めています。
お客さまの真のパートナーとなり、「人の安全と健康に係るデータの価値創造」を最優先した事業活動を通じて、安全と健康の実現を支援し続けることで、サステナブルな企業経営の実現と社会の発展に貢献してまいります。

● サステナビリティ推進体制

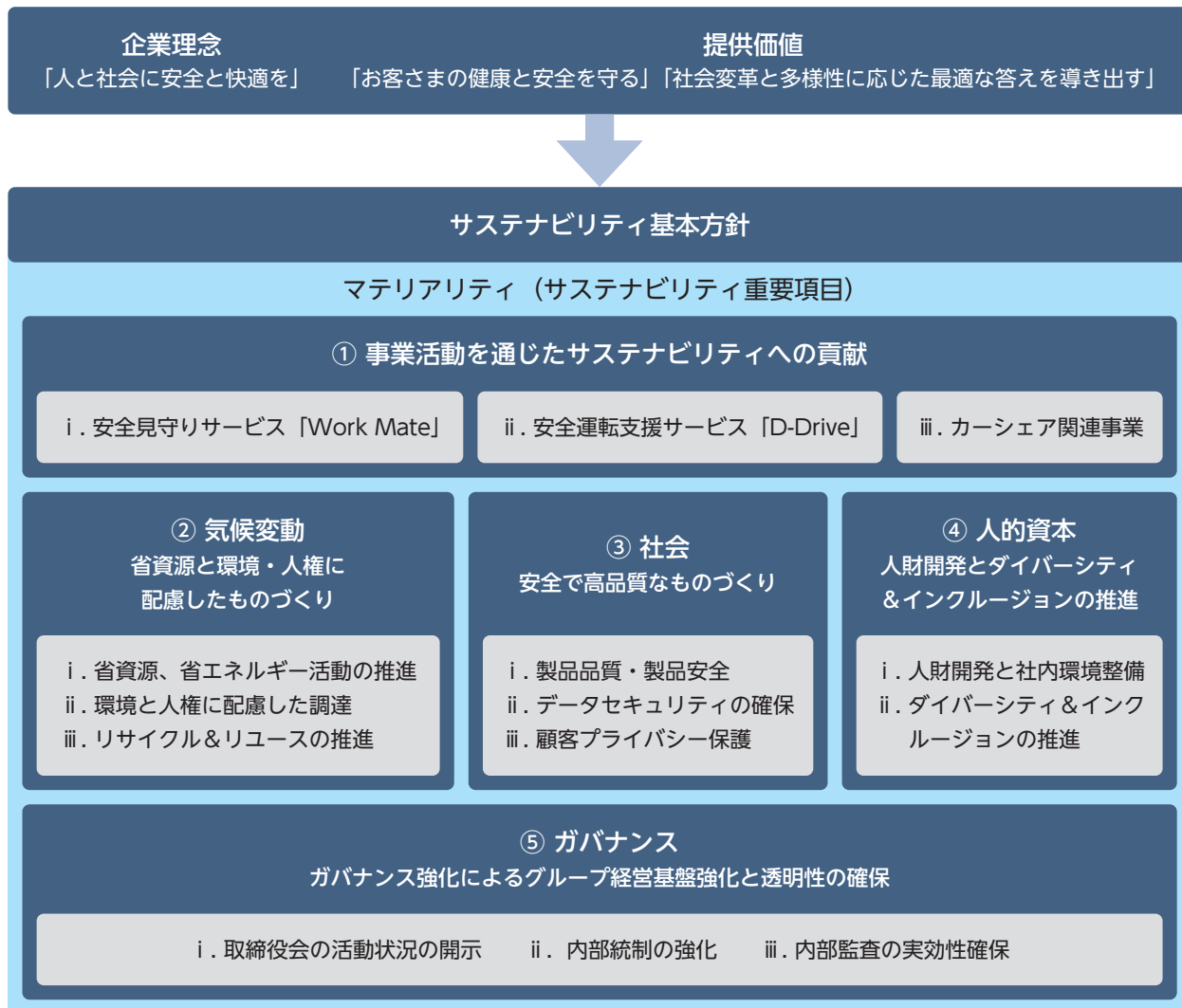
- ✓ 取締役会は、サステナビリティ推進を監督・指導する。
- ✓ サステナビリティ委員会は、マテリアリティ（サステナビリティ重要項目）・KPI・具体策を策定し、当該モニタリングを行い、取締役会に報告及び承認を得る。
- ✓ メンバー：社長を委員長、副社長を副委員長、オブザーバーを常勤監査役とし、事務局をグループ管理部、サステナビリティに直接関わる部門の責任者、議案の内容に応じてその他の関係者が出席

サステナビリティ委員会の役割（原則年2回開催：6月・1月）

- ✓ マテリアリティ（サステナビリティ重要項目）・KPI・具体策の策定・討議・見直し
- ✓ KPIのモニタリング
- ✓ 社会課題、サステナビリティを取り巻く国内外の情勢に関する情報共有
- ✓ 取締役会への報告事項に関する討議



2. サステナビリティ体系図



3. 戦略 マテリアリティ (重要課題) と施策概要

✓ ユビテックは、2023年6月に次の5つの事項をサステナビリティに係る「マテリアリティ (重要課題)」として設定し、課題の解決と目標達成に向けて各種取組を進めています。

マテリアリティ		施策概要
①事業活動を通じたサステナビリティへの貢献		[Work Mate] お客様の安全と健康の実現を支援 [D-Drive] お客様の安全運転に向けた法令遵守・業務効率化の同時実現を支援 [カーシェア関連事業] カーシェア事業運営の技術支援で環境負荷低減・地域活性化に貢献
②気候変動： 省資源と環境・ 人権に配慮した ものづくり	省資源、省エネルギー活動の推進	EMS (ISO14001) 活動を通してのモニタリングと削減の推進
	環境と人権に配慮した調達	
	リサイクル&リユースの推進	
③社会： 安全で高品質な ものづくり	製品品質・製品安全	QMS (ISO9001) 活動を通してのモニタリングと品質管理 (品質保証委員会による全社管理) の推進
	データセキュリティの確保	ISMS (ISO/IEC27001) 活動を通してのモニタリングと対策実施
	顧客プライバシー保護	
④人的資本： 人材開発とダイ バーシティ&イ ンクルージョン の推進	人材開発と社内環境整備	以下の項目を重点テーマとして社内環境整備を行い、将来の顧客ニーズや社会変化に対応し、持続的な価値創造を実現する多様な人材開発を推進 ・マインドセット (企業理念及び提供価値の浸透) ・事業、エクスパティーズ転換に伴うリスクリング ・持続的成長に向けた技能承継とマネジメントスキル向上 ・新たな価値創造を引き出す人材育成
	ダイバーシティ&インクルージョンの推進	従業員の多様性を尊重し、働きがいを持って能力を発揮できる環境を構築。特に、会社の意思決定に参画する女性リーダーの育成に注力
⑤ガバナンス： ガバナンス強化 によるグループ 経営基盤強化と 透明性の確保	取締役会の活動状況の開示	開催頻度、具体的な検討内容、個々の取締役の出席状況などを追加開示
	内部統制の強化	内部監査チームを中心として、当社グループにおける法令や社内規程の遵守状況、職務執行手続き及び内容の妥当性、有効性を監視するとともに、内部統制システムが適切に運営されているかどうかのモニタリングを実施
	内部監査の実効性確保	原則年2回、内部監査結果を代表取締役に加えて取締役会と監査役会へ直接報告するデュアルレポーティングラインを構築

4. リスク管理、指標と目標

✓ ユビテックは、サステナビリティに関する課題を把握し評価するため、次のとおり、マテリアリティごとにリスクと機会を特定しています。特定したリスクと機会に対しては、サステナビリティ推進体制のもとでKPI・具体策を策定し、施策実行状況やKPI達成状況のモニタリングを行っています。さらに、サステナビリティ委員会から当該内容を取締役に報告し、取締役会が取組状況の監督・指導を行っています。

【凡例】 ●・・・リスク ○・・・機会

マテリアリティ		リスクと機会	目標KPI
①事業活動を通じたサステナビリティへの貢献		●…品質低下、債務不履行による信用失墜 ○…安全衛生に係る価値提供による顧客獲得	・顧客における提供サービスに係わる事故発生ゼロ
②気候変動： 省資源と環境・人権に配慮したものづくり	省資源、省エネルギー活動の推進	●…委託先の不正、不祥事による信用失墜、企業価値の下落 ○…社会的信用力の向上による企業価値向上	・オフィス使用電力量 前期比1.5%減 ・紙使用枚数 前期比1.5%減
	環境と人権に配慮した調達		・環境関連の法令違反・行政処分・健康被害発生ゼロ
	リサイクル&リユースの推進		・産業廃棄物排出量（売上比）前年以下
③社会： 安全で高品質なものづくり	製品品質・製品安全	●…品質偽装などの不正による信用失墜 ○…高品質なものづくりによるブランド向上と顧客獲得	・重大品質問題発生ゼロ
	データセキュリティの確保	●…情報漏洩等の重大事故発生による信用失墜 ○…セキュリティ意識の高い顧客の取り込み	・重大インシデント発生ゼロ
	顧客プライバシー保護		・エンフォースメント発生ゼロ
④人的資本： 人財開発とダイバーシティ&インクルージョンの推進	人財開発と社内環境整備	●…人財確保の競争激化による経営への影響 ○…持続的な価値創造を実現する多様な人財育成	・女性管理職比率を2025年6月期末に20%へ引き上げる
	ダイバーシティ&インクルージョンの推進		・性別ごとの管理職比率の男女差均衡を図る
⑤ガバナンス： ガバナンス強化によるグループ経営基盤強化と透明性の確保	取締役会の活動状況の開示	●…社会的信用力の低下 ○…企業価値向上、経営透明性向上	・業務執行モニタリング ・不正、不祥事発生ゼロ
	内部統制の強化		
	内部監査の実効性確保		

株式情報 (2023年6月30日現在)

■ 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
オリックス(株)	8,527,200	57.64
糸谷 輝夫	417,800	2.82
後和 信英	305,300	2.06
(株)SBIネオトレード証券	296,700	2.00
GMOクリック証券(株)	238,500	1.61
日本証券金融(株)	194,900	1.31
叶 毓菁	185,000	1.25
(株)SBI証券	154,246	1.04
岡三証券(株)	116,100	0.78
東海東京証券(株)	112,300	0.75

■ 株式の状況

発行可能株式総数

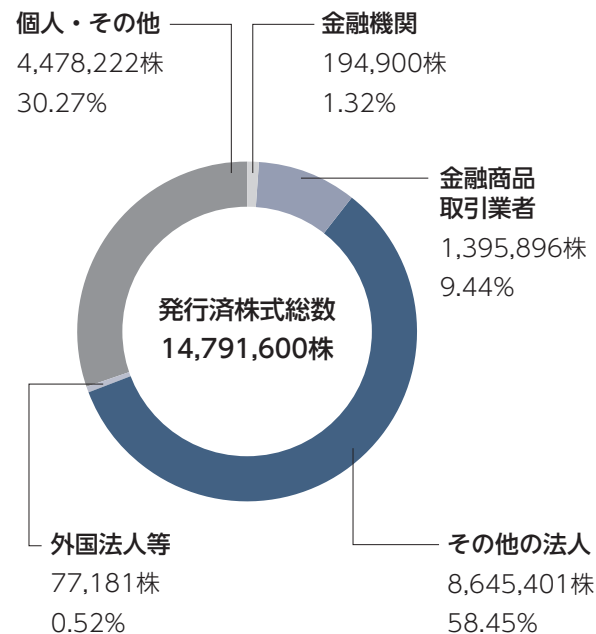
52,000,000株

発行済株式総数

14,791,600株

株主数

3,080名



会社情報 (2023年9月26日現在)

■ 会社概要

商号	株式会社ユビテック Ubiteq,INC.
設立	1977年11月17日
所在地	〒106-0047 東京都港区南麻布三丁目20番1号 Daiwa麻布テラス
資本金	941百万円
金融商品取引所	東京証券取引所 (スタンダード)
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人
証券コード	6662
従業員数	76名 (連結)
連結子会社	株式会社ユビテックソリューションズ

■ 役員

代表取締役社長	大内 雅雄
取締役副社長	前川 淳
社外取締役	中澤 仁
社外取締役	早野 順一郎
取締役	高橋 英文
取締役	上谷内 祐二
常勤監査役	片野 一宏
社外監査役	津谷 忠男
社外監査役	大月 将幸

■ 株主メモ

事業年度

毎年7月1日から翌年6月30日までの1年間

基準日

定時株主総会、期末配当 毎年6月30日
中間配当 毎年12月31日

定時株主総会

毎年9月下旬

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1番1号
TEL.0120-232-711 (通話料無料)

郵送先

〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行 証券代行部

公告方法

電子公告 (<https://www.ubiteq.co.jp>)

ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

